

製品名: PTP1B ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86832**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	Calculated MW:50 kDa; Observed MW:50 kDa

抗原情報

遺伝子名	PTP1B
別名	PTP1B
遺伝子 ID	5770
SwissProt ID	P18031
免疫原	ヒト PTP1B の合成ペプチド

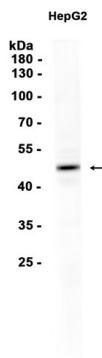
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、タンパク質チロシンホスファターゼ（PTP）ファミリーの創設メンバーであり、酵素

活性とアミノ酸配列に基づいて単離され、同定されました。PTPは、特異的にチロシン残基上のリン酸モノエステルの加水分解を触媒します。PTPファミリーのメンバーは、触媒活性に必須の高度に保存された触媒モチーフを共有しています。PTPは、細胞の成長、分化、有糸分裂周期、および癌性形質転換などのさまざまな細胞プロセスを制御するシグナル伝達分子として知られています。このPTPは、インスリン受容体キナーゼのホスホチロシン残基を脱リン酸化することにより、インスリンシグナル伝達の負の調節因子として機能することが示されている。このPTPは、上皮成長因子受容体キナーゼ、JAK2、およびTYK2キナーゼを脱リン酸化することも報告されており、このPTPが細胞成長制御やインターフェロン刺激に対する細胞応答に役割を果たしていることが示唆されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写変異体が見つっています。[RefSeq 提供、2013年7月]

研究分野

画像データ



PTP1B ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して HepG2 細胞抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。